

# 実態把握のポイント

愛媛県総合教育センター  
相談支援部 特別支援教育室

## 研修の内容

- ・実態把握とは、子どもを（ ）することである。
- ・（ ）（ ）（ ）を通じて情報収集を行う。
- ・現象面にとらわれず、行動の（ ）を理解する。
- ・（ ）に目を向ける。
- ・（ ）等に明記し、情報の共有と活用を図る。

## 実態把握の基本的な考え方

- 一人の子どもとして見る
  - ・ 障がい名などにとらわれない。
  - ・ その子ども自身の姿をとらえる。
- 「できること」を知る
  - ・ 困難さばかりに目を向けない。
  - ・ 今できていること、これからできそうなことに注目する。

実態把握・・・子どもを理解する

## 子どもの全体像をとらえる

基礎情報

(気になる点・願い)

背景情報

(家庭環境・生育歴・既往歴)

全般的知的発達の水準

認知や言語面の特性

(得意な領域・苦手な領域)

学習面の特性

(読み書き・算数など)

身体運動面の特性

(全身運動・微細運動)

行動面の特性

(注意、落ち着きなど)

対人関係・社会性

(友人関係など)

## 子どもを理解するための情報収集

- 行動観察
  - ・ 授業や休み時間などの様子
  - ・ 友達との関わりの様子
  - ・ テストやノート、作品など
- 聞き取り（本人、保護者、教員など）
  - ・ 願い、家庭での様子、家庭環境や生育歴
  - ・ 学校や地域での様子
  - ・ 引継ぎ資料など
- 諸検査など
  - ・ 直接的な評価の方法
  - ・ 間接的な評価の方法

### 【行動観察】

- 観察と記録のポイント
  - ・ 把握したい行動を焦点化し、事実を具体的に書く。
  - ・ 場面の状況、周囲の人の行動を書く。
  - ・ 1日の記録や一定期間の記録を取ることで行動のパターンが見えてくることもある。
  - ・ 問題となる場面だけでなく、うまくいった場면을記録することが参考になる。

## 【行動観察】

### ○ チェックリストの活用

学習や行動についての実態把握 【2次チェック】			
立 小学校			
氏 名	第 学年 組 番	平成 年度	
(男 女)			
☆ 巡回相談や専門家に相談したことがある。	(有 無)		
☆ 発達検査を実施している。	(有 無)	H	・ ・
☆ 個別の指導計画を作成している。	(有 無)	H	年～
(チェック)			
	具 体 的 な 困 難 や つ ま ず き	✓	✓
聞 く	・ 聞いたことを忘れて、何度も聞き返す。		
	・ 聞き間違いがある。		
	・ 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。		
	・ 話の内容や指示の理解が難しい。		
話 す	・ 適切な声の大きさや速さで話すことができない。		
	・ 発音できない音や行がある。		
	・ 単語を羅列したり、正しい内容の短い文を話したりする。		
	・ 言葉や助詞の使い方が適切でない。		
	・ 会話が一方的で、話題の違った話ができない。		
話 お	・ 単語を、片側を話さない。		

実態把握は、子どもの学習や行動のつまずきに早期に気づき、適切な支援をすることを目的としている。

LD、ADHD、高機能自閉症等の診断は医師が行うものである。

愛媛県教育委員会特別支援教育課HPよりダウンロード可能

## 【聞き取り】

### ○ 面談

保護者及び本人（年齢等考慮）と面談を行う。

- ・ 本人・保護者の願い
- ・ 現在の家庭での様子や困っていること
- ・ これまでの生育暦やどのような支援を受けてきたか（個別の教育支援計画等で確認）

### ○ 引継ぎ資料

- ・ 個別の教育支援計画や個別の指導計画など
- ・ 上記以外の資料にも、問題行動等の記載が見られる場合には、二次的障がいの可能性を考える必要がある。

## 【聞き取り】

- 関係機関から得られる情報
  - ・ 診断に関する情報、健康面や医療に関する情報
  - ・ 福祉サービスやその利用に関する情報
  - ・ 心理検査の結果や学校で配慮すべき事柄など

個人情報取り扱いに注意！！

- ※ 保護者の同意と了解を得る。

了解が得られない場合

→時間を掛けて信頼関係を築く。

外部機関と連携を図った支援の必要性について理解してもらう。

## 【主な検査】

- 田中ビネー知能検査 V
- WISC-Ⅲ、Ⅳ知能検査
- K-ABCⅡ心理・教育アセスメントバッテリー
- DN-CAS認知評価システム
- 新版K式発達検査
- DTVPフロスティッグ視知覚発達検査
- S-M社会生活能力検査

この他にも様々な検査があり、対象の子どもの実態や目的に応じた検査を実施する。

## 諸検査を実施する上で大切な視点

- 検査の目的（検査を通して知りたいこと）を明確にして実施する。
- 検査結果や検査時の様子、日頃の様子を関連させて、総合的な解釈を行う。

※ 本人・保護者へ事前事後の説明を行う。

## 実態把握の留意点

- 情報収集だけで終わらない。
- 子どもと関わりながら観察する。
- できること、可能性に目を向ける。
- 柔軟な目で子どもを見る。
- 現象面にとらわれず、行動の背景を理解する。
- 複数の目で子どもを見る。
- 得られた情報を総合して子どもを理解する。
- 継続して子どもを見る。

# 情報の共有と活用

児童名		男・女	年齢	歳	か月	学年	年生
児童の 特徴	① 児童の身体的な特徴・発達・関心等について ② 保護者						
学習面	③ 学習態度の状況等について（得意・不得意があれば記入） ④ 読む・書く ⑤ 算数 ⑥ 国語 ⑦ その他						
運動面	⑧ 学校内での運動について ⑨ 家庭での運動						
⑩ 家庭環境について（状況の異変、理由による変更等も記入） ⑪ 備考							

学年部の教職員や各教科担当の教職員等と情報交換を行いながら、得られた情報をまとめる。

※子どもの実態に応じて、必要な項目に記入する。

愛媛県教育委員会特別支援教育課HPよりダウンロード可能

- 個別の教育支援計画等に明記する。
- 全教職員の共通理解の下、合理的配慮が行えるように活用し、変更が見られたときには加筆修正する。